

# 福祉サービス第三者評価結果

## ①第三者評価機関名

名 称	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
調査実施日	令和4年1月13日・14日

## ②事業者情報

名 称	こまつしま健祥会認定こども園	種 別	保育所
代表者氏名	園長 井若 絵美	定 員	120名
所 在 地	小松島市中田町新開2-8		

## ③総評

### ◇特に評価の高い点

#### 教育・保育理念を踏襲した保育実践や環境整備の取り組み

園では、法人が掲げる目的や存在意義等を反映した教育・保育理念や基本方針等を定めつつ、職員や保護者、地域などに対して理念等を周知・浸透していくために様々な工夫を行っている。法人が有する4つの認定こども園のグループ“ドリームステージ”のパンフレットには、法人や園の教育・保育理念等を示すとともに、写真やイラストなどを活用し、理念等に対する思いや雰囲気が伝わるよう作成している。共用空間や壁面、廊下等には、理念等に関する宣言・標語・絵画などを飾ることで、理念等を踏まえた教育・保育に取り組む雰囲気を醸し出している。職員は、登降園時の子どもや保護者、来訪する関係者などに対して、挨拶や感謝の言葉がけを行うことを大切にしている。職員の姿を見た園児が、園児同士で挨拶を交わしたり、来訪者に挨拶をしたりするなど、園の雰囲気を子ども達が感じている様子がうかがえる。また、子育て公開講座やボランティア活動への参加など、園が持つ知識・技術等を地域に提供・還元するとともに、社会的役割を果たす取り組みも実施している。園が目指す教育・保育理念等を大切に捉えつつ、組織風土を醸成していることは、評価できる。

#### 組織体制の強化に向けた総合的な人事管理の取り組み

園では、教育・保育理念や事業計画等を実現するために、必要となる人材確保や人材育成、人員体制の整備等を実施している。中・長期計画の重点的取り組みテーマとして、“高品質な教育・保育の構築”と“魅力的な職環境のデザイン”の2つを掲げ、子どもや保護者等のニーズにあわせたサービス提供に向けて取り組んでいる。年間の職員研修計画は、月ごとの研修予定を“質の向上”、“コンプライアンス・リスクマネジメント”、“本部研修（階級や職種別の研修）”、“キャリアアップ”などの項目ごとに分けて記載し、計画的に実施している。また、理念等の実現に向けた“期待する職員像”を明確化するとともに、人事基準の明確化や職員の育成（目標管理制度、教育研修制度等の整備）、キャリアパス制度や人事考課制度の導入、処遇（昇格基準・給与基準・福利厚生等その他労働条件の整備）の充実を図るなど、総合的な人事管理を行っている。さらに、職員の専門性を高めるため、定期的に自己評価等、一人ひとりが保育実践の振り返りを行い、資質向上に努めている。全職員が園の教育・保育理念や基本方針、経営状況等を踏まえつつ、目標の達成に向けて組織的に取り組んでいることは、評価できる。

#### 全体的な計画にもとづく、子どもが主体的に過ごすことのできる環境整備の取り組み

園では、全体的な計画にもとづいて、子どもが主体的に過ごすことのできる環境の整備に取り組んでいる。計画の中で、4つの教育・保育目標（（1）礼儀と感謝の心を表現できる子ども、（2）自分を大切にできる子ども、（3）友達や仲間と競い合い、認め合い、助け合える子ども、（4）人の話を聞き、自分で考え、行動できる子ども）を掲げ、子どもを中心とした教育・保育の実践に努めている。園庭に様々な遊具を設置するとともに、ボールで遊ぶ場所や乗り物に乗る場所などのスペースを分けることで、子どもが安全且つ自由に遊ぶことができるようにしている。ランチルームを設けて、遊びと食事の場を分けることで、子どもの遊びを継続することができるよう配慮している。また、定期的に、3歳以上の子どもに対して、体操教室や英語教室、サイエンス教室、音楽教室など、専門講師による教育的サービスを実施し、子どもの興味・関心を広げるよう取り組んでいる。子どもが自発的、意欲的に関わることのできる環境を整備するとともに、全体的な計画にそった取り組みを実践していることは、評価できる。

### ◇改善を求められる点

#### 組織の危機管理とリスクマネジメントに関する取り組み

園では、組織の危機管理体制として、リスクマネジメント体制や感染症対策の管理体制、災害時の対応体制等を整備している。年間の事業計画のなかで“リスクマネジメント計画”を策定し、事故発生時の流れ（事故状況の報告、リスクの把握、リスク分析、リスクへの対応、対応への評価）を定めている。法人内の認定こども園によるグループ内での研修等で、リスクマネジメントに関する情報等を収集し、園内で共有化を図ることで、職員間での周知・徹底を行っている。日ごろの教育・保育等におけるヒヤリハットの事例は、子ども一人ひとりの保育日誌に記載するとともに、必要に応じて抽出し、発生要因の分析に努めている。今後は、教育・保育とあわせて、厨房や事務など、組織全体でのヒヤリハット事例の収集に努めることが望まれる。また、収集した事例をもとに、発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討するなど、さらなる安心・安全な福祉サービスの提供に向けた組織的な取り組みに期待したい。

## ④福祉サービス第三者評価結果に対する事業者のコメント

この度、初めて第三者評価を受審したことで、自園の保育理念、方針、目標、日々の保育の振り返りができ職員間で共通理解する良い機会となりました。今回、助言、ご指導頂いた点についてより良い運営に向け、改善に取り組んでいきたいと思ひます。今後も、園児、保護者、地域に寄り添いながらより良い教育、保育を目指し、職員間で話し合い、共通理解しながら保育の質の向上に努めていきたいと思ひます。

## ⑤評価細目の福祉サービス第三者評価結果(別添)